

作成日 2016年03月04日

改訂日 —

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名： オルガード T-817

会社名： オルガノ株式会社

住所： 東京都江東区新砂 1-2-8

担当部門： 機能商品事業部

電話番号： 03-5635-5214

FAX 番号： 03-3699-7244

推奨用途及び使用上の制限： スライムコントロール剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性：	爆発物	：—
	可燃性又は引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	：—
	エアゾール	：—
	支燃性又は酸化性ガス	：—
	高压ガス	：—
	引火性液体	：区分外
	可燃性固体	：—
	自己反応性化学品	：—
	自然発火性液体	：区分外
	自然発火性固体	：—
	自己発熱性化学品	：区分外
	水反応可燃性化学品	：区分外
	酸化性液体	：—
	酸化性固体	：—
	有機過氧化物	：—
	金属腐食性化学品	：—
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	：区分外
	急性毒性（経皮）	：—
	急性毒性（吸入：ガス）	：—
	急性毒性（吸入：蒸気）	：—
	急性毒性（吸入：粉じん）	：—
	急性毒性（吸入：ミスト）	：区分4
	皮膚腐食性及び刺激性	：区分1
	眼に対する重篤な損傷 又は眼刺激性	：区分1
	呼吸器感作性	：—
	皮膚感作性	：区分1
	生殖細胞変異原性	：—
	発がん性	：—
	生殖毒性	：—
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：—
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：—
	吸引性呼吸器有害性	：—
環境に対する有害性：	水生環境有害性（急性）	：区分2

水生環境有害性（長期間）：区分2

オゾン層への有害性：－

＊上記の「－」は分類対象外又は分類できないことを示す。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：危険

危険有害性情報

- ・吸入すると有害（ミスト）
- ・重篤な皮膚の葉傷及び眼の損傷
- ・長期継続的影響によって水生生物に毒性
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

注意書き： 【安全対策】 ・使用前に安全データシート(SDS)を入手し、全ての安全注意を理解するまで取り扱わないこと。

・この製品を使用する時に、飲食・喫煙をしない。

・保護手袋/保護衣/保護面/保護眼鏡を着用し、作業後には付着していないと思っても必ずその場で保護具を着用したまま洗い、保護具を脱いだ後も手・顔などをよく洗うこと。可能であれば全身シャワーを浴びること。

・ミストを吸入しないこと。

・屋外または換気の良い場所でのみ使用する。

・汚染された作業衣は作業場から出さず、適切に廃棄する。

・環境への放出を避ける。

【応急措置】 ・吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

・気分が悪い時は速やかに医師の診断を受ける。

・飲み込んだ場合：口をすすぎ、水を飲ませる。無理に吐かせない。

・速やかに医師の診断を受ける。

・皮膚に付着した場合：直ちに多量の流水と石鹸で洗い流す。薬剤付着の心配がある時、及び作業後にも必ず洗浄する。

・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。

・眼に入った場合：直ちに大量の流水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズは容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続けること。

・漏出物を回収する。

・ばく露又はばく露の懸念がある場合、異常がある場合：医師の診断／手当てを受けること。

・汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には十分洗濯をすること。

【保管】 ・容器を密閉して換気の良いところで保管する。

・施錠して保管する。

【廃棄】 ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託する。

【その他】 ・目的用途以外に使用しないでください。

・本品は皮膚や粘膜に付着すると、数時間後に水疱、化膿等の葉傷を起こすおそれがあります。

付着又は付着の懸念がある場合は、直ちに洗浄してください。

3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区別： 混合物
化学名又は一般名 等： 次の通り

成分名(別名)	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS No.
			化審法	安衛法	
ワザアロ系殺菌剤	20 以下	非公開	既存(非公開)	—	55965-84-9
その他	非公開	非公開	既存(非公開)	—	既存(非公開)

4. 応急措置

吸入した場合： 直ちに空気の清浄な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い等異常がみられる時は速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：直ちに多量の流水と石鹼で洗い流す。
薬剤付着の心配がある時も必ず洗浄する。
衣服に付着した場合は、直ぐに脱いで破棄する。
異常が生じた場合は速やかに医師の診断を受ける。
処置には「副腎皮質ホルモン剤」が効果的と思われるが、
使用時に際しては医師の指示に従う。

目に入った場合： 直ちに大量の流水で数分間注意深く洗い、医師の診断を受ける。
コンタクトレンズは容易に外せる場合は外して洗眼する。

飲み込んだ場合： 直ちに口をすすいで水等を飲ませ、医師の診断を受ける。
無理に吐かせない。意識がない場合は何も与えない。

5. 火災時の措置

消火剤： この製品自体は燃焼しない。周辺火災に応じて適切な消火剤等を用いる。

使ってはならない消火剤： 情報なし

火災時の特有の危険有害性： 本製品自体は不燃性であるが、周辺火災の場合は高温により有害ガス（塩化水素、窒素酸化物、硫黄酸化物）や刺激性ミストが発生するおそれがある。

特有の消火方法： 移動可能な場合は速やかに安全な場所に移動する。
移動不可能な場合は周辺を水噴霧等で冷却する。

消火を行う者の保護： 必ず保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。
有害なガスやミストの吸入を避けるため呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 屋内の場合は処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出場所周辺は関係者以外の立ち入りを禁止する。
飛沫が皮膚に付着したり、ミストを吸入しないように適切な保護具を着用する。

保護具及び緊急時措置： 「8. 暴露防止及び保護措置／保護具」参照。

環境に対する注意事項： 漏出製品が直接河川等環境中に排出されないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材： 適切な容器にできるだけ回収し、廃棄に備える。
回収し切れなかったものは、消石灰やソーダ灰等で中和した後、
等量の処理剤（重炭酸ソーダ 10%＋次亜塩素酸ソーダ 5%水溶液。
都度調合のこと）を撒き、30 分後に多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 漏れ、溢れ、飛散等を防止し、みだりにミスト等を発生させない。
 局所排気・全体換気 : 作業場所の換気を行う。必要に応じて局所排気装置を設置する。
 注意事項 : 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
 容器の転倒、落下等粗暴な扱いをしない。
 この製品を使用する時に、飲食・喫煙をしない。

作業後、薬剤が付着していないと思って必ず洗浄する。(次手順参照)

- ①保護具を付けたまま、表面に付着した薬剤を洗い流す。
 ②保護具表面に接触しないように注意して、保護具を脱ぐ。
 ③薬剤付着がなくても、体の露出部や濡れている部分を重点的に洗う。

汚染された作業衣は作業場から出さず、適切に廃棄する。

安全取扱い注意事項: **目、皮膚及び衣類に触れないように、必ず保護具を着用する。**

「8. 暴露防止及び保護措置／保護具」参照。

保管

- 適切な保管条件 : 容器は密栓し、直射日光を避け、換気のよい冷暗所に保管する。
 安全な容器包装材料: 耐酸性材質（ポリエチレン樹脂等）を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない
 許容濃度 : 日本産業衛生学会 : 設定されていない(2009 年度)
 ACGIH : 設定されていない(2010 年)
 設備対策 : 屋内作業場は十分に換気を行う。局所排気装置の設置が望ましい。
 作業場近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設置し、位置を明瞭に表示する。

保護具

亀裂や穿孔、内部の濡れがないことを確認して使用する。

- 呼吸器の保護 : 防毒マスク（有機ガス用、必要に応じて着用）
 手の保護 : 不浸透性の保護手袋（ゴム手袋等）
 目の保護 : 保護面または保護眼鏡
 皮膚及び身体 : 不浸透性の保護衣（ブーツ、エプロン及び全身保護服）、ゴム長靴
 保護

9. 物理的及び化学的性質

- 外観 : 淡青～淡黄緑色液体
 臭い : 特異臭
 pH : 1.7(原液、25℃)
 融点・凝固点 : -5℃以下
 沸点、初留点及び沸騰範囲 : データなし
 引火点 : なし
 爆発範囲 : データなし
 蒸気圧 : データなし
 蒸気密度 : データなし
 比重 : 約 1.0(25℃)
 溶解性 : 水に易溶
 オクタール／水分配係数 : データなし
 自然発火温度（発火点） : なし
 分解温度 : データなし
 燃焼性（固体、ガス） : 自ら発火、燃焼、爆発しない

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の取扱い条件においては安定である。
- 危険有害反応可能性 : pHが低い場合金属を腐食するおそれがある。
- 避けるべき条件 : 加熱。反応性のある物質との接触。
- 混触危険物質 : アルカリ性物質、還元性物質、酸化性物質、アミン類との接触を避ける。
- 危険有害な分解生成物 : 熱分解により塩化水素、窒素酸化物、硫黄酸化物が生成するおそれがある。

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 飲み込むと有害。食道、消化器等の粘膜を損傷するおそれがある。混合物としての製品のATEmix 計算値=4450 mg/kg (経口)
(参考：イソチアゾロン系殺菌剤としてのデータ)
経口毒性 (LD50) ; 457 mg/kg (ラット)
経口毒性 (LD50) ; 660 mg/kg (ウサギ)
- 皮膚腐食性・刺激性 : 刺激性が強く、皮膚や粘膜に接触した場合化膿等の薬傷を起こすおそれがある。皮膚付着時は殆ど異常を感じないため気付くのが難しく、洗浄せずに放置すると数時間後にかゆみ、痛み、湿疹、水疱、化膿等の薬傷を起こすおそれがある。付着時直ちに洗浄すれば殆どの場合障害は現れないが、症状が現れてから洗浄してもあまり効果がない。
(参考：イソチアゾロン系殺菌剤としてのデータ)
ウサギ 腐食性
- 眼に対する重篤な損傷
／刺激性 : 眼に入ると視力低下や失明のおそれがある。
(参考：イソチアゾロン系殺菌剤としてのデータ)
ウサギ 腐食性
- 呼吸器皮膚感作性
／皮膚感作性 : 皮膚感作性あり。繰り返し接触すると、感受性が高まる可能性がある。
- 生殖細胞変異原性 : (参考：イソチアゾロン系殺菌剤としてのデータ)
非変異原性。
- 発がん性 : (参考：イソチアゾロン系殺菌剤としてのデータ)
マウスの皮膚試験及びラットの経口試験のいずれにおいても非発がん性。
- 生殖毒性 : (参考：イソチアゾロン系殺菌剤としてのデータ)
生殖に関する危険有害性物質ではない。
- 特定標的臓器／全身毒性
(単回ばく露) : 情報なし。
- 特定標的臓器／全身毒性
(反復ばく露) : 情報なし。
- 吸引性呼吸器有害性 : ミスト等を吸入すると、肺水腫、気管支炎を起こすおそれがある。

12. 環境影響情報

- 生体毒性(魚毒性、その他) : 水生生物に有毒であり、水中環境に長期の悪影響を及ぼすことがある
20mg/L(24hr)、16mg/L(48hr) (LC50、ヒメダカ) (参考値)
- 残留性・分解性 : データなし
- 生体蓄積性 : データなし
- 土壌中の移動性 : データなし
- その他 : CODMn=10gO/L

13. 廃棄上の注意

産業廃棄物として都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託処理する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処理する。
極少量の場合は多量の水で希釈して放流する。
使用後の容器は中に薬液が残らないようし、産業廃棄物として処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	: IMDGの規則に従う。
航空規制情報	: ICAO/IATAの規則に従う。
国内規制	
陸上規制情報	: 特記事項なし。
海上規制情報	: 危規則危険物および海洋汚染物質に該当する。 船舶安全法・危規則に定められている運送方法に従う。
航空規制情報	: 航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類	: 8(6.1)
国連番号	: 2922:その他の腐食性物質(液体)(毒性のもの)
容器等級	: II
輸送の特定の 安全対策及び条件	: 運搬に際しては梱包材料の破損のない事確かめ、落下・転倒・損傷がない様に積み込み、荷くずれの防止を確実に行う事。
緊急時応急措置 指針番号	: 154

15. 適用法令

消防法	: 非該当
毒劇物取締法	: 非該当
化管法	: 第1種指定化学物質:非該当 第2種指定化学物質:非該当
労働安全衛生法	: 通知物質(法第57条の2):非該当 労安規則第326条:腐食性液体
船舶安全法(危規則)	: 腐食性物質(毒性)
海洋汚染防止法	: 海洋汚染物質

16. その他の情報

- ・本データシートは、製品の安全な取扱いのための情報として、現時点で入手できる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性や完全性を保証するものではありません。
- ・本データシートは、新たな知見に基づき改訂されることがあります。
- ・本データシートは、本製品用途における通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いの場合は用途・用法に則した安全対策を実施してください。
- ・本データシートは日本国内向けに作成したものです。
日本以外で使用する場合は、その国での法律・規制等を確認してください。